

実際の流れ

• テスト開始前

ひとつの丸いテーブルを囲むように5～6名がけの椅子が並んでいます。

テーブルごとにグループが分かります。またテーブルごとにホワイトボードがあります。

受験生は、受付後に指定された場所に着席します。

• あいさつ、テストの趣旨説明(5分)

「今回のこの入試は、机に向かって一つの正解を探すものではなく、一人一人が思っていることや感じていること、実現したいことを表現してもらおうと思います。」

• アイスブレイク(5分)

「そのためにまずはゲームをやって緊張した心を少しだけ軽くしたいと思います。」

→これからの AL 入試へむけてリラックスし、協調的なマインドに整えることが重要です。

無理に目立つ必要はありません。

• 活動(計70分)

→中央のプロジェクターと3つのサブモニターに表示されるスライドに沿って指示が出されます。

「今回の入試では、わくわくする未来の教室について考えてみましょう！」

①「未来の教室にあったら嬉しいものを考えましょう！」(記入3分、紹介2分)

②「出てきたアイデアを今の学校で実現できそうなものとできなそうなのもの2つに分けてください。」(3分)

「実現できなそうなものの中から、一番わくわくするものを選び、ホワイトボードにまとめてみましょう。」(3分)

<まとめる項目>

・チームで選んだわくわくするもの

・それがあある教室ではどんなことが起こるだろうか

③「グループで考えた教室を形にしてみましょう！」(作成時間20分)

→粘土や折り紙などを使用して表現してもらいますが、作品の出来具合で評価はしません。

意見を交換させながら自分や仲間のアイデアを形にできるかが大切です。

「隣のグループに紹介する準備をしましょう。」(5分)

→デザインシートを使用して準備をします。

<デザインシートの項目>

・教室のテーマ

・この教室で大切にしていることは何か

・この教室のこだわりは何か

「お互いに紹介や質問をしましょう。」(各班3分ずつ)

※相手の作品を否定するような質問はやめましょう。

④「紹介を聴いたり、質問をもとに、隣のグループの「未来の教室」を更に良いものにしていきましょう！」(5分)

→他のグループが考えた教室を理解し、自分事としてとらえてアイデアを出すことが大切です。

「発展させたアイデアをお互いに紹介していきましょう。」(3分)

⑤「発展されたアイデアも参考にしながら、自分たちの作品に手を加えて、教室をもっと良くしていきましょう。」(5分)

→さらに改善しようとする粘り強さとグループの仲間を励ましながら協力することが大切です。

⑥「他のグループの「未来の教室」も見てみましょう！」(5分)

→付箋とペンを持って、感じたことを書いて伝えていきます。

⑦「今日これまでやってきたことを振り返ってみましょう。」(5分)

→これまでの活動を列挙し、内省を促します。

- メッセージ(5分)

※ある企業のCMの動画→メッセージにつながる導入の位置づけ

今日のワークではあえて「難しいもの」の中から「わくわくするもの」を選び、自分で創ったり、違うグループのアイデアに加えてみたりして、素敵なものが創られました。未来って色々心配なこともたくさんあります。例えば、AIが発達すると便利になる一方で、仕事がなくなったり、AIに支配されるかもしれません。環境問題でいえば、温暖化が進んで海面が上昇して、ゆくゆくは日本も沈んでしまうのではないかということも挙げられます。でも、そういうネガティブな未来だけでなく、皆さんや僕たちが描く未来はきっとポジティブなものもあると思います。さらに、一人では実現できなかった未来がたくさんの人によって実現することもあります。

現に、皆さんが創り出した「未来の教室」はとても素敵でした。皆さんには未来があります。ここにいる僕たちやそれに関わる人たちで「わくわくする未来」を想像して、それを実現していきたいと思っているし、それをここかえつ有明の舞台上で出来たら最高だなと思っています。